報告 シャングリラ足助2012

～若者が住み続けられる足助を目指して～

今回のシャングリラ足助は、参加者数２８４名の開催となり、ご参加いただいた皆様におかれまして、この場を借りてお礼申し上げます。

ご都合により参加できなかった皆様は、是非この報告書を参考にして地域づくりに活かしてください！！

なお、当日の模様が http://asuke.tv/で配信されていますので、こちらも是非ご覧ください。

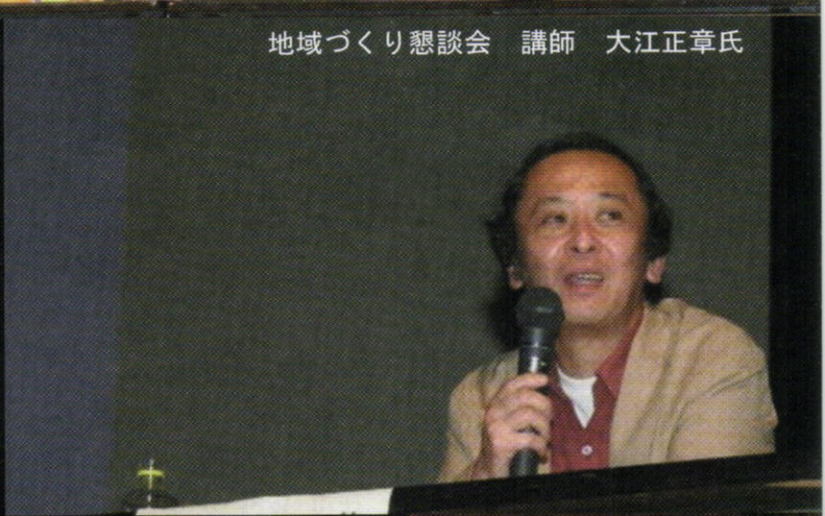
開催日：平成２４年３月１７日（土）

会　場：足助交流館

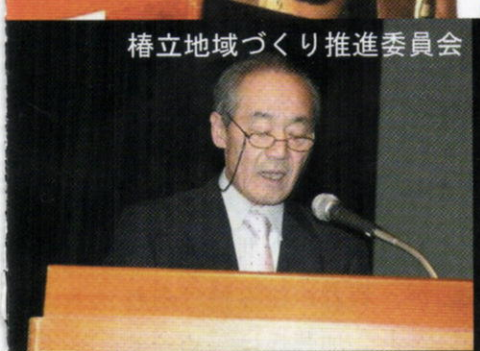
主催
足助地域会議・足助地区コミュニティ会議
足助地区区長会・豊田市役所足助支所

琴友会　花グループの皆さんの演奏

地域づくり懇談会　コーディネータ　加藤栄司氏

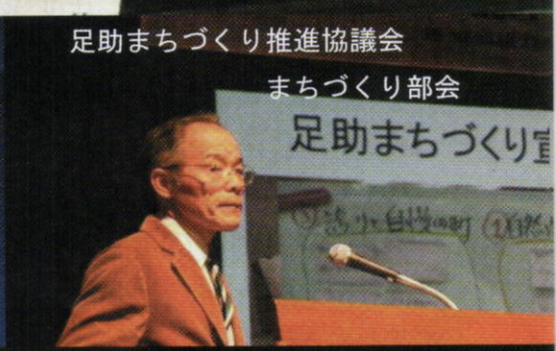


地域づくり懇談会　講師　大江正章氏



椿立地域づくり推進委員会

足助地区コミュニティ会議



足助まちづくり推進協議会
まちづくり部会

立派に発表をした足助中学校の皆さん

地域づくり懇談会

地域を愛する若者を増やし、多様な若者と共に地域づくりをすることが未来を切り開く

講師
大江正章　氏
ジャーナリスト
出版社「コモンズ」代表

地域づくり懇談会では、まず大江正章氏から若者が住み続けられる地域とはどのようなものかについて語っていただいた。

―現代の豊かさ、幸福とは

現代は、GNPが増加しているにも関わらず、国民の生活満足度が1980年代半ばをピークにして増加していない。また、都市から農山村に向かう若者が増加しており、物質的な豊かさや都市化することが幸福に繋がるとは限らない。

現代は、これまでの都市化一辺倒の方針を見直す時代であり、過去の農山村の暮らし方、仕事の仕方を評価しなおす時代でもある。

―農山村の可能性

現在、「農」に対するイメージが変わってきている。安全・安心な食べ物を求めて自分達の食べる分だけ野菜を作ろうとする流れが大きくなっている。この意味で、足助は都市部に近く、こうした流れを受け止める立地条件は整っている強みがある。

しかしながら、農家・農村に対する負のイメージである閉鎖的な人間関係、仕事がない状況などは、根強く残っている。

こうしたギャップをどのようにして解消するかが若者の住み続けられる地域にするための重要なポイントになってくる。

―農山村の価値の発見

上越市にかみえちご山里ファンクラブという若者が中心のNPO団体がある。彼らは、ヨソ者の視点で農山村の価値を発見し、マイナスとして捉えられていた農山村をプラスに転化し、地域をフィールドにして、棚田学校、食のまかない力体感ツアーなどの仕事を創出した。農山村に魅力を感じる彼らのような若者は、積極的に地域に溶け込もうとするし、彼らが新たなつながりを作り出す。

農山村の閉鎖性と仕事がない状況を打開するには、彼らのような若者と共に地域づくりをしていくことが重要である。若者が新たな価値を発見し、仕事を創出しながら、農山村を求める様々な人に開かれた農山村を提供する。

大江氏は以上のように述べ、こういった地域を愛するヨソ者と一体となった地域づくりの延長線上に若者が住み続けられる地域というものがあるのではないかと持論を展開した。

大江氏の講演に続き、加藤英司氏をコーディネーターとして、現在足助地区内に在住の3名の若者と意見交換を行った。

―多様な足助の魅力

ゲストの3名の若者は、それぞれUターン、Jターン、Iターンという経歴の持ち主だ。彼らは、それぞれの理由で足助に魅力を感じ、足助に居住している。誇りある「ふるさと」としての魅力、家族が心豊かに住める場としての魅力、自己実現する場としての魅力。こういった多様な魅力を現在の足助は持っている。

―これからの足助が持つべき強み

多様な魅力を持つ足助は、多様な人材を引きつけている。大江氏の講演にあったように、足助に居住しているかは別にして、こうした足助を愛する多様な若者を受け入れることの出来る地域、共に地域づくりをする地域となることが、若者が住み続けられる足助に繋がるのではないかと、加藤氏は締めくくった。

コーディネーター
加藤栄司　氏
愛知県交流居住センター
事務局長

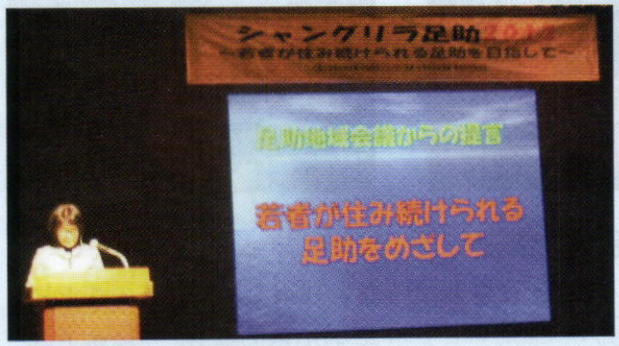
地域会議からの報告

足助地域会議からは、提言事業の進捗状況と来年度から新たに始まる事業について報告があった。

進捗状況の報告では、支障木伐採事業、歴史・伝統文化保存事業、定住おためし体験住宅、耕作放棄地防止事業の４事業について紹介された。

支障木伐採事業、耕作放棄地防止事業は、順調に進められているが、歴史・伝統文化保存事業、定住おためし体験住宅は今年度で終了するとのことだ。しかし、歴史・伝統文化保存事業は、有志が引継ぎ来年度以降も「聞き書き集」を作成していく。また、定住おためし体験住宅は、新盛に設置された里山くらし体験館がその役割を担うとのこと。色々な形になって、地域会議の提言事業は引継がれているようだ。

来年度からの新規事業では、若者が住み続けられる足助をめざし、２つの事業が実施されることが発表された。１つは、慢性的な空き家不足状態の解消のため、「空き家発掘交渉隊」を結成し、空き家の発掘を推進するという「空き家の提供支援による定住促進事業」。もう１つが、足助出身の若者に足助地区の情報を届け、足助とのつながりを絶たないことで、Ｕターンを促進する「あすけ通信によるＵターン促進事業」だ。若者の定住は、足助地区の抱える最大の課題である。強力に推進して「若者が住み続けられる足助」としてほしい。



地域づくり発表

椿立地域づくり推進委員会

椿立自治区では、平成１８年度から平成２３年度にかけて、３つの地域でわくわく事業に取り組み、椿立自治区周遊コースが完成したと報告した。

わくわく事業に取り組んだ当初は、集落の中から文句の１つや２つが出てくるものだと覚悟していたが、フタを開けてみれば笑顔で作業をする皆がいたという感動的なエピソードも紹介された。地域住民が一丸となって、地域づくりに取り組む椿立自治区には活気が漲っている。

NPO 法人共存の森ネットワークも、椿立には関わっているようで、これからの椿立自治区がますます楽しみだ。

足助地区コミュニティ会議

足助地区コミュニティ会議は、今年度のテーマを「拡げよう参加の和（輪）」として、一層の参加と充実をめざして活動を進めた。

福祉部会は、６回の交流会を実施したほか湯浅景元氏による講演会などを実施した。環境部会は、巴川周辺の環境整備 LifeRiver キャンペーンに協力するなどした。安全・安心部会は、群馬大学教授の片田敏孝氏による防災講演会を開催するなどした。文化部会は、市政６０周年記念式典に参加しお姫滝幻想を上演した。以上、４つの部会の活動報告のほか、長野県売木村での地域づくり研修、足助まちづくりサロンについて報告を行った。

足助中学校

総合的な学習の時間を利用して、地域のことについて学んできた３年生からの発表。「地域と共に生きる」をテーマとして、これまでお世話になった地域に対して自分達は何ができるのかを考え、実行に移した。

C組は「地域の方と二人三脚」をテーマに農業の課題に取り組んだ。都市の農業を知るため、修学旅行先で先進的な農業技術を学んだ。そして、足助で実際に農業に挑戦。イノシシに荒らされるなど、苦労をしながらも地域の人に支えられ、作物を収穫することが出来た。C組は、地域の人との農作業を通じて、多くのことを学び、自然を生かして足助をもっと活性化させたいと強く思うようになった。

B組は、県内で初の重伝建に選定された足助の町並みを守りたいという想いから、「足助歴史浪漫守り隊３B!!」を結成した。旧紙屋鈴木邸の清掃活動など実際に足助の町並みを守る様々な活動を行った。足助の歴史的価値に触れたB組は、今ある景観を残しながら、まずは足助の人たちにその価値を知ってもらいたいと締めくくった。

A組は、川に関わる足助の活動をしていこうと「足助人伝～川追及記～」をテーマに活動を開始。これには、足助の良さを知って、それを伝える足助人になりたいという想いが込められている。A組は、地域の人から話を伺い、今の足助があるのは地域の人の色々な活動があるおかげだと知った。そこで、川を綺麗にするといわれるEMだんごを巴川に投げ入れたり、EM液の配布を行ったほか、万灯まつりの手伝いを行った。

学級単位での活動の他にも、地域の人に支えられ様々な活動を経験した足助中学３年生達。中学卒業後も、地域活動に積極的に参加することで、恩返しをすること。足助の良さを伝える足助人になることを宣言した。彼らのような若い世代が頑張っている。大人も負けていられない。

足助まちづくり推進協議会 まちづくり部会

まちづくり部会は、足助自治区のまちづくりに関する意思決定機関である「足助まちづくり推進協議会」の専門部会の１つだ。景観と観光を軸として様々な活動を行っている。

重伝建を記念したシンポジウムで、足助自治区が目指す将来像として「足助まちづくり宣言」が推進協議会から発表。この将来像と既存の数多くの地域づくり活動を結びつける役割を果たすのが「まちづくりプラン」だ。

現在、東京大学が地域住民とのワークショップを通じて作成した素案を叩き台として、まちづくり部会にて「足助の未来への挑戦」としてまちづくりプランを検討している。

２年間お疲れさま!!

第３期足助地域会議は、２年間の任期を迎えた。地域会議会長は、任期満了を迎えてのあいさつで、様々な地域課題に即効性のある事業は中々見つからないが、地域住民と一緒に取り組んでいることが出来れば、確かな成果を得ることが出来ると述べた。地域会議と地域住民で手をつないで、足助の地域づくりを進めていければ嬉しいと述べた。

参加していただいた皆さんありがとうございました。皆さんにいただいたアンケートのご意見は、地域会議で検討を続けていきます。

発行日　平成２４年３月３１日
編集・発行　豊田市役所足助支所
〒４７１－０６０１